

世界 LNG 動向#109 2025 年 1 月

橋本裕*

はじめに

1 月 20 日、米新政権は発足初日に、LNG 輸出許可の一時停止措置（ポーズ）を終了し、承認手続きを再開することを発表した。ポーズが実施された 2024 年 1 月以降大型 LNG プロジェクトの新規の非 FTA 輸出許可はないが、それ以前も、米国本土の非 FTA 輸出許可は 2020 年 7 月が最後で、当該の西海岸のプロジェクトはその後中止された。以降の輸出承認は、アラスカ州の案件、既存プロジェクトの輸出増量分、2050 年までの許可期間延長が主体となっていた。輸出許可手続きの前提となる建設許可手続きについても、2024 年は既許可分の法廷による取り消し含め、足踏みがみられた。

LNG 輸出影響スタディ更新版公表とポーズ解除が迫った 12 月 10 日、米エネルギー省（DOE）は、審査手続きのフロントラインにある LNG 輸出プロジェクト名を列挙し、連邦エネルギー規制委員会（FERC）が環境審査後建設許可を完了しない限り DOE のこれらの案件審査を完了することはできないことを改めて表明した。すなわちポーズが終了しても直ちに許可が続出することにならないことを示した。DOE は、1 月 21 日、LNG 輸出影響スタディ更新版に対するパブリックコメント受付期間を、当初示した 2 月 18 日から 3 月 20 日まで延長することを発表した。

2024 年の世界 LNG 貿易量は 4.05 億トンと、過去最高とはいえ前年比微増に留まった。輸入の内訳としては、中国が 8%増（同国の輸入量が 7665 万トンで世界最大）および東南アジア・南アジアの大幅増加が、欧州連合 + 英国の 2 割・約 2200 万トン輸入減少分（輸入量 9200 万トン）を相殺した形となった。日本はほぼ横這いであった。総じて需給は静穏な市場であった。

アジアでは、市場別には、台湾、香港、タイ、マレーシア、シンガポール、フィリピン、ベトナム、インド、バングラデシュの LNG 輸入量がそれぞれ、史上最高を更新した。特に ASEAN 地域・インドを含む南アジア地域の LNG 輸入量は、いずれも前年比 16%増、それぞれ 2400 万トン、4000 万トンとなった。

輸出側では、2023 年に世界筆頭 LNG 輸出国となった米国が、増加率が過去と比較して緩やかとはいえ、継続するキャパシティ拡大を反映して、輸入市場での陸揚げベースのカウントで 8500 万トンを輸出した。豪州が 8000 万トン、カタールが 7900 万トンと、安定的な輸出を続けた。続いてロシアは LNG 輸出力を前年比 5%増加して 3300 万トンとした。

* 資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット

[アジア太平洋]

北海道ガス株式会社は、2025 年 1 月 7 日、苫小牧東港にて、カーボンニュートラル拠点の整備検討を行うことを決定したことを発表した。将来的な水素・e-メタン導入等を見据えた拠点となる新 LNG 基地の建設を検討している。

中国天然ガス消費は、2025 年 1 月 23 日の NDRC (国家发展和改革委员会) 情報によると、前年比 8%増の 4260.5 億 m³ だった。12 月の消費量は前年同月比 0.5%増の 378.4 億 m³ となった。中国 NBS (国家统计局) 発表によれば、2024 年の天然ガス生産は前年同期比 6.2%増の 2464 億 m³ となった。12 月の天然ガス生産は前年同月比 3.6%増の 218 億 m³ だった。貿易統計によると、同国は前年比 9.9%増の 1.32 億トンの天然ガスを輸入した。パイプラインガス、LNG を含む。LNG 輸入量は 7665 万トン、前年比 7.7%増、2021 年比 6.4%減だった。

フィリピン First Gen 社は、2025 年 1 月 6 日、子会社 FGEN LNG が、エネルギー省 (DOE) より、バタンガス市 First Gen Energy コンプレックス内・暫定沖合 LNG 基地操業・維持 (POM) 許可を受けたことを発表した。POM は 25 年間有効となり、操業会社側はコマーシャル稼働に進むことができる。

タイ Gulf Energy Development 社は、2025 年 1 月 14 日、子会社 Gulf LNG 社向けの最初の LNG カーゴを同 6 日に受け入れたことを発表した。Gulf LNG 社の、規制機関 ERC より受けた天然ガス調達・取り扱いライセンスは、IPP 発電設備: Gulf Pluak Daeng Power Plant (GPD) ・ Gulf Sriracha Power Plant (GSRC), SPP 発電設備: 19 件の小規模発電 (SPP) 設備、工業用需要家向けに供給するため、最大年間 640 万トンの LNG 輸入を認めるものである。Gulf LNG は ADNOC Trading と LNG 購入契約を締結している。今回のカーゴは、PE LNG 社の Map Ta Phut LNG Terminal 2 (LMPT2) 基地を活用する。Gulf は天然ガスビジネス拡大を計画している。この拡張戦略には Map Ta Phut 工業港湾開発第 3 段階が含まれる。埋め立ては既に 95%超完了しており、LNG 基地プロジェクトは 2027 年完成を予定している。

ベトナム PV Power (PetroVietnam Power) 社は、2025 年 1 月 29 日の発表によると、2 月 1 日にドンナイ省 750-MW LNG 火力 Nhơn Trạch 3 発電設備より、送電を開始する。Nhơn Trạch 4 発電設備もまもなく稼働開始見込みで、6 月までに両方とも商業稼働開始見込みである。

マレーシア PETRONAS 社は、2025 年 1 月 30 日、前日 29 日に Miri、Bintulu 地域で大規模な洪水があったが、操業に支障はない、と明らかにした。

マレーシア首相は、2025 年 1 月 10 日、日本に対して、PETRONAS LNG との長期的関係、PETRONAS クリーンエネルギー取り組みでの CCUS、四国電力・広島ガスへのカーボンニュートラル LNG カーゴ引き渡しまで、謝意を表した。同首相はまた、ラオス、タイ、マレーシア、シンガポールの ASEAN 送電網、サラワク州からマレー半島・シンガポールへの海底送電線に向けた同州の取り組みに日本の参加が必要なことに言及した。同首相はま

た、PETROS の参加、PETRONAS の協力によるサラワク州の水素取り組みに日本の支援があることにも言及した。

サラワク州政府は、2025 年 1 月 15 日、同政府と Petros は、マレーシア中央政府・Petronas と、Petros が同州での専任ガスアグリゲーターとして消費者へのガス供給を中断することなく役割を遂行するべく、緊密に連携していく、と述べた。

インド GAIL (India) 社は、2025 年 1 月 15 日、GAIL・SM&TS (SEFE Marketing & Trading Singapore Pte Limited) が、2022/2023 年度 GAIL 向け LNG カーゴ引き渡し不履行に関わり GAIL が起こした仲裁手続きに和解したことを、ボンベイ証券取引・インド証券取引に報告した。GAIL 向け引き渡しは 2023 年 3 月以降復活している。この和解は、SM&TS による GAIL への 2.85 億米ドルの支払い、仲裁手続きの取り下げが含まれる。

Excelerate Energy 社は、2025 年 1 月 6 日、2007 年最初に行って以来、3,000 件目となる LNG 船舶間移送 (STS) 作業を、2024 年 12 月 28 日に完了したことを発表した。Excelerate 社の FSRU (浮体貯蔵・気化設備) Excellence が Maran Gas Maritime 社の LNG 輸送船舶 Maran Gas Asclepius より、バングラデシュ Moheshkhali 浮体 LNG (MLNG) 基地にて、1 カーゴを受け入れたものである。

Summit Group は、2025 年 1 月 22 日、バングラデシュ 3 件目の FSRU (浮体貯蔵・気化設備) プロジェクトの打ち切り通知を見直すことを Petrobangla (Bangladesh Oil, Gas and Mineral Corporation) 社に求めている、と述べた。Summit は、打ち切りは無効、さらに Summit が既に実施のため 2000 万米ドルを投資済みの同プロジェクトの遅延は、同国のエネルギーの一層の不安定につながる、と述べた。Summit LNG Terminal II Co. Ltd. (SLNG II) 社はこの 3 件目の FSRU に関する TUA (基地利用契約) を 2024 年 3 月 30 日に Petrobangla との間で締結していた。

ACCC (豪州競争・消費者関係規制機関) は、2025 年 1 月 10 日、最新のガス市場調査報告を公表した。この中で、天然ガスがエネルギートランジションに重要な役割を担うにも関わらず、新規ガス生産・支えるインフラストラクチャが見合ったスピードで稼働開始されていない、と述べた。同報告によると、国内ガス供給を継続的に確保していくことが、東部市場のエネルギーセキュリティ、国際 LNG 市場に依存することによる市場安定性に対するリスクを限定するために重要となる。「現在の見通しでは、供給が増加するか、需要が減少するかしない限り、2027 年から東部に構造的なガス不足の可能性があると ACCC は述べた。

「現在、新規国内ガス供給を利用可能とするためには大きな障壁がある。長期間を要する規制承認プロセス、大規模な初期投資コスト、不確実な政策環境、上流ガス市場における競争の欠如である」「より長期的な見通しを改善するため、東部の効率的かつタイムリーな投資を支える諸策の導入が肝腎で、さらに広範囲には電力・ガス市場の秩序立ったトランジションである」。同報告は、エネルギートランジションへの政府計画にてガスの役割を明示し、エネルギーセキュリティ実現に市場主導のソリューションを支え、トランジションにおけるガス市場を支えることを提言している。

豪 Santos 社は、2025 年 1 月 23 日、2024 年第 4 四半期業績報告にて、Moomba 炭素回収貯蔵 (CCS) プロジェクトは 2024 年 10 月を通じて立ち上がり、同月中に公称注入率に到達した、と述べた。同四半期中に CO₂ 換算 340,000 近く (総量) を注入・貯蔵し、技術面・資源層の面でパフォーマンスは期待通りとなった。Santos・中部電力は、2024 年 10 月、名古屋 CO₂ 集積ハブ計画から Moomba に恒久貯蔵のため CO₂ を輸送する実現性を検討すべく、MOU を締結した。

豪 Origin Energy 社は、2025 年 1 月 31 日、2024 年第 4 四半期報告にて、APLNG の 2025 年 6 月終了年度の生産量見通しを、670 - 690 PJ (ペタジュール) へと、685 - 710PJ から下方修正した。要因は Condabri, Talinga, Orana ガス田の生産性改善が見通しを下回ったこと、自社以外の操業資産におけるガス田の実績が不振、計画外停止があったこと。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 1 月 22 日、2024 年第 4 四半期業績報告にて、North West Shelf (NWS) プロジェクトにおける第 2 系列は、恒久停止に向け、2024 年 10 月 28 日に停止された、と述べた。同系列停止は、CO₂ 換算年間 30 万トン相当 (Woodside 分 33%) の排出削減につながる見込み。Woodside 社は、NWSJV ガス田の資源・第三者資源を Karratha ガス設備にて長期的に処理できるように、NWS プロジェクト延長に関して、ウエスタンオーストラリア州政府より環境承認を受けた、と述べた。連邦政府承認手続きは進行中である。前記承認の一環として、NWSJV は大気汚染物質排出の大幅削減等の大幅な環境管理対策、温室効果ガス管理対策にコミットした。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 1 月 22 日、2024 年第 4 四半期業績報告にて、Scarborough Energy プロジェクトの最新状況を報告した。Scarborough・Pluto Train 2 プロジェクトとして、同四半期末時点で (Pluto Train 1 改修を除き) 78%完了となった。浮体生産設備 (FPU) 船殻・上部構造組み立ては、2025 年分として計画された FPU 統合作業よりも先行した。433 km 幹線パイプラインの設置・試運転準備作業は完了した。Pluto Train 2 モジュール 51 件中、最後のものが Pluto LNG 現場に引き渡し・設置完了した。Pluto Train 1 改造プロジェクトについて、Woodside 社史上最大の土着民族企業建設契約を Winyama 社と締結し、土木作業が開始、モジュール建造作業も進捗している。Woodside 社は Scarborough 合弁事業の 15.1%非操業参加権の JERA 社への売却を完了した。最初の LNG カーゴを 2026 年目標としている。

豪 Tamboran Resources 社は、2025 年 1 月 22 日、Santos 社と Darwin LNG (DLNG) 第 2 系列拡張可能性・Beetaloo 盆地にて共有する EP 161 鉱区 (Santos 75% オペレーター、Tamboran 25%) における作業協力に関連して実務検討を行う MOU (覚書) を締結したことを発表した。Tamboran は引き続き、NTLNG プロジェクト開発にもコミットしており、Bechtel 社とプレ FEED 検討を進めている。

豪 Santos 社は、2025 年 1 月 23 日、2024 年第 4 四半期業績報告にて、Barossa ガスプロジェクトは 88.3%完了となり、2025 年第 3 四半期に現状のコストガイダンスの範囲で生産を実現する見通しと述べた。6 本生産井の掘削プログラムにて、2 本目・3 本目につい

で最終掘削作業が完了し、フロー試験は強力な結果となり、資源層のパフォーマンスは期待通りだった。4 本目は部分的に掘削され、いったん中断して 2025 年に再開予定、5 本目は開坑された。Darwin 複線化は 71.4%完了し、Darwin LNG への陸揚げは完了、パイプラインの 30 km 超は敷設された。

[北米]

米新政権は、2025 年 1 月 20 日の大統領令にて「エネルギー長官は適用法令に準拠し、速やかに LNG 輸出承認のための審査を再開すべし。個別具体申請における『公共利益』促進の評価に当たり、エネルギー長官は申請承認により生じる合衆国への経済・雇用影響ならびに同盟諸国・パートナー諸国へのセキュリティ影響を勘案すべきこと」と指令した。

米連邦エネルギー省 (DOE) は、2025 年 1 月 21 日、新大統領が発出した「米国のエネルギー優位性を活かす」方針に従い、LNG ポーズを終了し、通常の方法に戻ることを発表した。化石燃料・カーボンマネジメント局 (FECM) は、連邦天然ガス法 (NGA) に則り米国と自由貿易協定 (FTA) を持たない諸国向けの米国産 LNG 輸出の申請の検討を再開することを指示されている。LNG 輸出申請の適切な審査は法の求めるところである。2024 年 12 月、DOE は LNG 輸出に関する特定の複数の問題に関して、数分冊の分析を発行し、2025 年 2 月 18 日をこのスタディに関するパブリックコメントの期限として設定した。この公共利益判断に適切なステイクホルダーのインプットを受けるため、DOE はこのコメント期間を 2025 年 3 月 20 日まで延長する。

米石油類業協会 API は、2025 年 1 月 21 日、米国のエネルギー最大活用に向けた新大統領初日の大統領令に対してステートメントを発表した。「米国民は投票箱に明確なメッセージを送り、大統領は初日に応じた。米国のエネルギー優位が米国の経済・セキュリティの課題の中心となる。資源へのアクセスを拡大し、LNG ポーズを解消し、規制承認手続きを合理化し、重量車両への基準を撤回するよう命じることで、米国民全てにより強力で繁栄につながるエネルギーの将来をもたらすことにつながる。米国のエネルギーにとり新たな一日であり、米国の石油・天然ガスが制限されるのではなく受け容れられるべき新たな道筋を直ちに示したことについて、新大統領を称賛する」。

株式会社商船三井は、2025 年 1 月 10 日、自社 100%出資子会社が発注し、TotalEnergies の子会社である TotalEnergies Gas & Power Limited (TGPL) 向け定期貸船契約に投入予定の新造 LNG 船命名式を Hanwha Ocean Co., Ltd. (한화오션) のコジェ (巨済 = Geoje) 造船所にて行ったことを発表した。本船は "MOLAZURE" (エムオーエル・アズール) と命名された。本船は、MAN Energy Solutions 社製エンジンを搭載している。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 1 月 22 日、2024 年第 4 四半期業績報告にて、Louisiana LNG 開発の最新状況を説明した。同社は、Tellurian 社およびその米湾岸 Driftwood LNG 開発案件の買い取りを完了し、同案件を Louisiana LNG と改称した。Woodside は一括請負引き渡し方式の EPC (エンジニアリング・調達・建設) 契約を Bechtel

社と、3 系列・年間 1650 万トン基本開発分について締結した。同プロジェクトは Bechtel との限定推進通知下で用地準備作業を継続、杭打ち、乾式掘削、海洋積卸設備に集中した。Woodside は Louisiana LNG 持分の一部売却の検討を進め、潜在的なプロジェクトパートナー企業から強い関心が寄せられた。Woodside は 2025 年第 1 四半期から、FID (最終投資決定) 準備完了となることを目標としている。

米 Venture Global 社は、2025 年 1 月 23 日、自社 IPO (新規上場) クラス A 普通株式 70,000,000 株額面 0.01 米ドルの売り出し価格を 1 株 25.00 米ドルと明らかにした。この売り出しに関連して、Venture Global は引受会社に対し、クラス A 普通株式を最大 10,500,000 株追加購入する 30 日間のオプションを付与した。クラス A 普通株式は同 24 日、ニューヨーク証券取引 (NYSE) にてシンボル VG にて取引開始された。

FERC (米連邦エネルギー規制委員会) は、2025 年 1 月 29 日、Venture Global Calcasieu Pass 社の Calcasieu Pass LNG プロジェクトの建設査察報告を公表した。FERC は 1 月 22 日にバーチャルでの視察を行った。同報告によると、最終の HRSG (廃熱回収ボイラー) 修繕作業が HRSG 371 について実施中で、完了は 2025 年 2 月末を見込んでいる。

FERC (米連邦エネルギー規制委員会) は、2025 年 1 月 28 日、Venture Global Plaquemines LNG 社に、同 22 日付の液化ブロック 7 向けの試運転・危険物液体の導入申請を許可する書簡を発行した。

Baker Hughes 社は、2025 年 1 月 30 日、Venture Global 社の米国内での LNG プロジェクト支援のためモジュラー化 LNG システム・パワーアイランド供給の契約を受注したことを発表した。Baker Hughes 社はまた、ルイジアナ州 Plaquemines LNG プロジェクト第 1 段階、第 2 段階支援のメンテナンス・点検・修繕・エンジニアリングの複数年役務枠組み契約を締結した。両契約とも 2024 年第 4 四半期に確保された。

NextDecade 社は、2025 年 1 月 6 日、子会社 Rio Grande LNG Super Holdings 社が、General Atlantic Credit (GA Credit) 傘下の Atlantic Park Fund と、1.75 億米ドルの優先担保付融資を提供する融資契約を締結したことを発表した。この融資により得られた資金は、2024 年 12 月 31 日融資クローリングとともに支払われた。このネットの資金は NextDecade 社の既存の 5000 万米ドルのリボルビングローン、1250 万米ドルの利付タームローンによる借入残高返済、運転資金および Rio Grande LNG 設備第 4、5 系列の拡張に伴う開発資金含めて全般的な会社目的のためにもつかわれる。クローリング当日、NextDecade 社は GA Credit 向けに約 716 万本のワラントを発行した。

バングラデシュの投資開発庁 BIDA (Bangladesh Investment Development Authority) は、2025 年 1 月 25 日、同国政府として米ルイジアナ州に本拠を置く Argent LNG 社との間で、最大年間 500 万トンの LNG 購入に関して、HOA (基本合意) を締結したことを発表した。

インド Larsen & Toubro 社は、2025 年 1 月 8 日、2024 年第 4 四半期に米国のプロジェクト向けに LNG 機器の受注を確保したことを発表した。

米アラスカ州 AGDC (Alaska Gasline Development Corporation) 社は、2025 年 1 月 6 日、

Alaska LNG プロジェクト開発の主導・資金調達に関して民間企業 1 社と排他的枠組協定を締結したことを発表した。Pantheon Resources 社は、1 月 8 日、この発表を歓迎した。

ALASKA PUBLIC MEDIA によると、AGDC (アラスカ州ガスライン開発公社) は、2025 年 1 月 9 日、Glenfarne 社を Alaska LNG プロジェクトの引き継ぎに関する会社として明らかにした。AGDC はこの会社名を「透明性を勘案して」公表した。Glenfarne は、AGDC との排他的協定があることを確認した。同社はこの協定を、North Slope ・同州南中部間のパイプライン、ニクスキでの LNG 輸出設備、スロープ側での炭素回収インフラストラクチャを対象として含む、と述べた。Glenfarne は、ENSTAR Natural Gas 社との間に、ニクスキの輸出インフラストラクチャ計画と同じ用地に、天然ガス輸入インフラストラクチャを推進するため、第 2 の排他的契約がある、と述べた。

米大統領は、2025 年 1 月 20 日、「Alaska LNG プロジェクト関連の必要なパイプライン、輸出インフラストラクチャへの許可を含め、アラスカ州の LNG ポテンシャルの開発を優先する」大統領令を発した。ケナイ半島ニクスキ地域の同プロジェクトは、2020 年 8 月、DOE (連邦エネルギー省) から、輸出最終承認を受けた。2021 年 1 月、同プロジェクトに適用される可能性ある気候変動関連の 2 命令が発行された。

カナダ Western LNG 社は、2025 年 1 月 14 日、私募による株式発行を 2024 年 12 月 30 日に完了し、1.50 億米ドルを超えるコミットメントを確保したことを発表した。この資金は、2025 年に見込まれる FID (最終投資決定) まで、Ksi Lisims LNG ・ Prince Rupert Gas Transmission (PRGT) プロジェクトの開発活動を支えることとなる。過去の私募発行分を含め、両プロジェクトを支える投資累積は、PRGT 向けに以前の所有者が行った投資に加えて 2.65 億米ドルを超える。今回の私募発行は、Blackstone Inc. 傘下の Blackstone Energy Transition Partners によるコミットメントが裏付けとなった。Western は今回の私募発行において Jefferies Financial Group Inc., Transition Equity Partners, LLC (TEP), その他新規・既存の民間投資家の子会社からコミットメントを受けている。

[中東]

Baker Hughes 社は、2025 年 1 月 30 日、Tecnicas Reunidas 社より、Aramco 社のサウディアラビア Jafurah ガス田第 3 段階拡張向けにガス圧送系列 6 本、プロパン圧送機 6 基を受注したことを発表した。この受注は、2024 年第 4 四半期に計上された。Baker Hughes は、電動モーター推進の圧送ソリューションを提供することとなる。Baker Hughes 社はこれまでに Aramco 社向けに、Haradh ・ Hawiyah ガス設備、Jafurah ガス設備・ガス圧送設備第 1 段階、サウディアラビア包括ガスシステムプロジェクト第 3 段階機器の圧送ソリューションを提供してきた。

サウディアラビア ACWA Power 社は、2025 年 1 月 27 日、Snam との間で欧州向けグリーン水素供給チェーン確立に向け協力・共同投資検討の MOU (覚書) を締結したことを発表した。サウディアラビアから欧州への安定・コスト効果的な国際供給チェーンの確立に

向けた協力・共同投資可能性の検討、イタリア・オーストリア・ドイツを通して中欧に至る 3,300 km 回廊 South H2 Corridor を通してのグリーン水素供給に向けてイタリアでのアンモニア輸入基地開発を検討する、としている。

アブダビ ADNOC Gas 社および関係企業群は、2025 年 1 月 27 日、JERA Global Markets Pte. Ltd. との、総額 4.50 億米ドル (16.53 億 UAE ディルハム) 相当 3 年間の LNG 供給契約締結を発表した。この LNG は、ADNOC Gas の年間 600 万トンの生産容量を持つ Das Island 液化設備より供給されることとなる。

CB&I 社は、2025 年 1 月 8 日、UAE アブダビ Ruwais の LNG プロジェクトに向け、超低温タンク 2 基、随伴土木・構造・機械・配管の作業の EPC (エンジニアリング・調達・建設) 一括請負契約を TJN Ruwais JV より受注したことを発表した。TJN Ruwais JV は、Technip Energies France-Abu Dhabi、日揮、NMDC Energy 間の合弁事業である。CB&I 社は 180,000 m³フルコンテインメント・コンクリート LNG タンク 2 基を供給することとなる。CB&I による建設作業は 2025 年 11 月開始見込み、プロジェクト完成目標は 2028 年 1 月となる。

アブダビ ADNOC Gas 社は、2025 年 1 月 9 日、Ruwais LNG プロジェクト向け LNG 前処理設備 (LPP)、圧送設備、原料ガス輸送パイプラインに関する総額 21 億米ドルの 3 件の支援契約発注先選定を発表した。この内最大の 12.4 億米ドル相当の LPP 向け契約は、Engineering for the Petroleum and Process Industries (ENPPI) ・ Petrojet 連合に決定した。輸送パイプラインについて 5.14 億米ドル契約は China Petroleum Pipeline Engineering Company (CPP = 中国石油管道局工程有限公司) に決定、Petrofac Emirates 社が 3.35 億米ドル契約に基づき新規圧送設備を開発する。

海洋燃料供給企業 Monjasa 社は、2025 年 1 月 8 日、アラブ首長国連邦、そして中東地域初の LNG バンカリングを、同 4 日、ドバイ港クルーズターミナル B にて Carnival 傘下の Costa Cruises 社と共同で実施したことを発表した。Monjasa が運航する LBV Green Zeebrugge が Costa Smeralda 客船に付き、3,000 m³程度の LNG を供給した。Monjasa は UAE での運用のため LBV Green Zeebrugge (5,000 m³) の備船を 2024 年 12 月 18 日に発表した。ADNOC Logistics and Services 社は、適切な LNG 輸送船舶 1 隻を、Monjasa 向けに FSU (浮体貯蔵設備) として 9 ヶ月間貸し出し備船することに合意している。Shandong Juniper は 2025 年 1 月中旬までに Monjasa 船団に加わる予定である。

オマーン Oman LNG は、2025 年 1 月 7 日、Shell 向けに、新規 10 年間のガス供給契約に基づき、最初の LNG 出荷を発表した。TotalEnergies 社は、2025 年 1 月 5 日、オマーン Oman LNG との 10 年間の引き取り契約に基づく最初のカーゴの積み込みが完了したことを発表した。

【アフリカ】

Golar LNG 社は、2025 年 1 月 21 日、FLNG Gimi が、モーリタニア・セネガル沖 Greater

Tortue Ahmeyim (GTA) プロジェクトの bp が操業する FPSO から、原料ガスを同 18 日に受け入れたことを発表した。これより先は、LNG 輸送船舶 British Sponsor からのガスが、早期のコミッショニング作業に使われていた。最初の LNG 輸出カーゴは、2025 年第 1 四半期、完全なコマーシャル上の稼働開始期日 (COD) は同第 2 四半期に見込まれている。

[欧州・周辺地域]

英国エディンバラの裁判所が、2025 年 1 月 29 日、政府が Shell の Jackdaw、Equinor の Rosebank を承認したことは違法との判決を下し、決定をやり直さなければならないとした。作業は継続できるが、再決定がなされるまで、ガス、石油を採取することはできない。Shell は Jackdaw ガス田、Equinor・Ithaca Energy は Rosebank 油・ガス田を開発している。Shell は「政府の迅速な動きが必要である」と述べた。Equinor は「Rosebank プロジェクト前進を続け、新たな承認を待つとの結論を歓迎」と述べた。

Shell 社は、2025 年 1 月 30 日、2024 年第 4 四半期報告にて、LNG 液化数量の見通しについて、2024 年第 4 四半期 7.1、同第 3 四半期 7.5 に対して、2025 年第 1 四半期 6.6 - 7.2 百万トンとした。LNG 販売量は 2024 年第 4 四半期 15.5 百万トンと、同第 3 四半期 17.0 百万トンから減少した。2024 通年の液化数量は前年比 3%減少した。

Wärtsilä 社は、2025 年 1 月 21 日、フランス海運企業 CMA CGM 社が、Wärtsilä 34DF 高速エンジン向けの新規 EnviroPac 方式を、Wärtsilä 社に発注したことを発表した。EnviroPac 方式は、メタン排出を半減しつつ、エンジンの高出力を維持し、IMO Tier 3 NOx 基準に準拠するよう設計されている。同エンジンは、中国の SWS (上海外高桥造船有限公司) で建造中の新造の LNG 動力のコンテナ船 8 隻に搭載される。

ドイツのガス市場管理担当企業 Trading Hub Europe (THE) は、2025 年 1 月 20 日、同年のガス貯蔵に関して、注入促進を図る補助金案を含む計画を示した。この補助金は、貯蔵のオークションを通じてオファーされるもので、THE ガスハブにおける 2026 年第 1 四半期契約とスポット価格の格差に基づくものとしている。THE は補助金としてオファーされる額に上限を設けるが、中身は明らかにしていない。THE はまた、供給者が在庫されるガスの所有権を維持すること、2025 年 11 月 1 日までに契約された容量を充足するべきことを提案している。

ドイツ Bundesnetzagentur (国家輸送網機関) は、2025 年 1 月 9 日、自国の天然ガス消費が 2024 年前年比 3.5%増加、主因は工業用消費の増加にあったことを明らかにした。家庭用ガス消費は、ガスボイラーの電気暖房機器への転換により、引き続き減少した。同国のガス消費はウクライナ戦争前 (2018 - 2021 平均) より 14%低い水準に留まり、2022 年エネルギー危機ピークを下回っている。ドイツのガス輸入は 2024 年、前年比 11%減少した。ガス輸出量が (50%以上) 減少したことが主因。

海洋インフラストラクチャ企業 Høegh Evi 社は、2025 年 1 月 20 日、SEFE (Securing Energy for Europe) ・ Høegh Evi が、ドイツ他欧州向けクリーン水素国際供給チェーン開

発に向け MOU (覚書) を締結したことを発表した。両社はアンモニアに基づくクリーン水素供給の様々な回廊の技術的・コマーシャルの実現性を検討する。ドイツのバルティック海・北海岸その他での浮体アンモニア・水素転換基地立地点も検討する。

ノルウェー監督機関 NOD による 2025 年 1 月 9 日公表されたノルウェー領大陸棚活動の要約によると、ガス生産は 2024 年、過去最高の 124 bcm に達した。2022 年は 122.8 bcm だった。2020 年代これ以降は全体としての生産量の減少を見込んでいる。減少幅を抑えるため、探査開発活動がインフラストラクチャ近くかつさらに辺境となるエリアで、またガス田群、発見、インフラストラクチャへの投資が実施される必要がある。

ノルウェー輸送網操業機関 Gassco ウェブサイト上の 2025 年 1 月 2 日付の通知によると、Hammerfest LNG 輸出設備はコンプレッサー1基の故障により、1週間停止されるとした。その後 Gassco は、1月8日、ウェブサイトにて、Hammerfest LNG 設備がその停止期間を10日間、現地時間で19日 23:00 まで延長したことを示した。

ロシア Gazprom 社は、2025 年 1 月 1 日、モスクワ時間 8:00 より、ロシア産ガスのウクライナ領を通しての輸送に向けて供給が行われぬ、と述べた。Gazprom は「両社間の契約の延長に関してウクライナ側が繰り返し明確に拒絶したことにより、Gazprom はウクライナ領を通じての輸送のためガスを供給する実務的・法的能力を奪われた」「2019 年 12 月 30 日締結された次の文書が失効した。Gazprom ・ Naftogaz 間のウクライナ領を通じてのロシア産ガス輸送手配に関する契約、両社間の協力契約である」と述べた。

米財務省は、2025 年 1 月 10 日、ロシアに対する追加制裁を発行した。Sovcomflot 所有の LNG タンカー4隻が含まれる。パナマ船籍 Christophe De Margerie、バルバドス船籍 Pskov、Velikiy Novgorod、ロシア船籍 Vostochny Prospect である。Arctic LNG 2 プロジェクトに関係する企業として Avison Shipping Services、Hongkong Yaqing Shipping Co、Skyhart Management Services、ZHOU SHAN WISON OFFSHORE AND MARINE CO LTD (舟山惠生海洋工程有限公司) である。Portovaya LNG 設備のオペレーター GAZPROM SPG PORTOVAYA LIMITED LIABILITY COMPANY (ГАЗПРОМ СПГ ПОРТОВАЯ ОБЩЕСТВО С ОГРАНИЧЕННОЙ ОТВЕТСТВЕННОСТЬЮ)、Cryogas Vysotsk LNG 設備のオペレーター CRYOGAS VYSOTSK LIMITED LIABILITY COMPANY (LIMITED LIABILITY COMPANY KRIOGAZ VYSOTSK) も制裁リストに加えられた。

[南米]

アルゼンチン YPF 社は、2025 年 1 月 21 日、インド Oil and Natural Gas Corporation (OIL), Gas Authority of India Limited (GAIL), Oil and Natural Gas Corporation Videsh Limited (OVL) との間で、最大年間 1000 万トンの LNG 輸出に向け、MOU (覚書) を締結したことを発表した。さらにこの合意は、リチウムその他重要鉱物、炭化水素開発・生産における協力も含む。アルゼンチン Argentina LNG プロジェクトは、Vaca Muerta 地域における複数の専用鉱区のガス生産、専用パイプラインによる大西洋岸リオネグロ州処理設

備（沖合/陸上）への輸送を含む。

アルゼンチンの内閣官房長官は、2025 年 1 月 28 日、YPF がアジアで LNG 販売最大年間 1500 万トン分の販売契約を確保しており、今後数週間のうちに欧州企業と最大年間 400 万トンの新たな LNG 販売契約を発表する、と述べた。

アルゼンチン YPF 社は、2025 年 1 月 31 日、Pan American Energy, Pampa Energia, Harbour Energy, Golar LNG で構成され、リオネグロ沿岸に最初の FLNG 船舶設置を目指す Southern Energy に参加することに合意したことを明らかにした。

[グローバル]

Chart Industries 社は、2025 年 1 月 8 日、グローバル包括資器材・業務提供契約（「実現契約」）を ExxonMobil と締結したことを発表した。この実現契約は、Chart が LNG 機器、技術、業務を、ExxonMobil の諸プロジェクトのグローバルポートフォリオに提供するため、諸条件・商業的枠組を設定する。ExxonMobil ・ Chart は、統一設計で多数建設のコンセプトを採用して、LNG プロジェクトのコスト、スケジュール、品質の最適化を図るとしている。

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp